

---

 所 報
 

---

## 研究室活動報告

### A 教育哲学研究室

教育哲学研究室の1978年度の活動は、前年にひきつづき各メンバーの個別研究活動を中心とした。1978年4月より林昭道専任講師，同9月より立川明専任講師の着任により，若手研究者が加わって充実を見た。このような状勢によって共同研究の条件がととのったので，計画を検討中である。

#### a. 教育哲学

##### 小島軍造客員教授

引きつづいて自宅にて療養中。

##### 金子武蔵客員教授

大学院において西洋思想史の演習を担当。

#### 讃岐和家教授

##### I 研究活動

1. 1978年度も初期デューイの教育思想の研究を行なった。
2. 下記の科学研究助成金による総合研究に研究分担者として参加し，分担課題の研究を行った。
  - (1) 「西洋倫理思想の日本における受容の研究（78年度が第3年次）」研究代表者は千葉大学人文学部の白田貴郎教授。1979年5月19日の例会において，分担課題「新渡戸稲造の場合」について研究報告を行った。
  - (2) 「大学院の組織形態と研究指導体制に関する総合的研究（78年度が第3年次）」。研究代表者は国立教育研究所，成田克矢室長。分担課題は「国内大学における事例研究」。
  - (3) 「私立大学における教員養成の総合的研究（78年度および79年度）」。研究代表者は早稲田大学教育学部の鈴木慎一教授。分担課題は「原理的研究」。なお，第1年次の共同研究の成果は，79年8月27日，日本教育学会大会（於九州大学）において報告される予定である。

#### 学会発表等

1. 78年10月5日教育哲学会第21回大会（於東京学芸大学）の研究討議「教育学の科学性を問う」に提案者の一人として参加し，学問論の立場から提案を行った。

2. 関東地区私立大学教職課程連絡研究協議会の第1回研究会（79年4月20日、於早稲田大学）のシンポジウム「私立大学における教員養成をどう改革してゆくべきか」に提案者として参加した。

### III 論文

1. 「和辻哲郎先生とキリスト教」。(和辻哲郎全集第20巻付録月報。岩波書店。78年6月。)
2. 「国際基督教大学大学院の事例研究」。(『大学院に関する研究—その2—。国立教育研究所。79年3月。)
3. 「宗教的情操の育成について」。(『道德と教育』第214号、日本道德教育学会。79年5・6月合併号。)

### IV その他

1. 「教育哲学研究」誌の編集委員。
2. 「キリスト教学校教育同盟」の特別委員会「キリスト者教師養成検討委員会」の委員（79年5月より）。

#### 川瀬謙一郎教授

##### I 研究活動

1. 1978年度はM. ウェーバーの宗教共同体論の研究、R. N. ベラーの市民宗教論の研究を行った。
2. 科学研究費助成金による総合研究「西洋倫理思想の日本における受容の研究」（代表者：千葉大学人文学部、白田貴郎教授）に研究分担者として参加。和辻哲郎におけるアメリカ論の研究を行った。

##### II 学会活動

1. 78年10月5日、教育哲学会第21回大会（於東京学芸大学）に出席。
2. 78年10月13、14日 日本倫理学会第29回大会（於茨城大学）に出席。

##### III 著作

1. 研究論文： 「ウェーバーにおける“宗教的音痴”の意味」ICU『アジア文化研究』11号、「宗教、文化、社会——大塚久雄教授古稀記念」、国際基督教大学アジア文化研究所、1979年5月、p. 191~200
2. その他： 「祭りと集団のこころ」、『マネジメントガイド』79年3月号、産業能率短期大学、p. 40—45

#### 林昭道専任講師

##### I 研究活動

ドイツ近代教育思想の研究

## ○ 研究業績

### ○ 発表論文

- ・ヘルバルトとディースタヴェーク——ヘルバルト研究序説  
『教育学研究』第40巻第3号 昭和48年
- ・ライプニッツにおける「認識」と「発展」  
『季刊・教育学』第4号 昭和49年
- ・シュプランガーとゲーテ  
シュプランガー『ドイツ教育史』明治図書収録 昭和52年
- ・作業学校の思想  
有斐閣双書『教育学』第3巻所収 昭和54年
- ・翻訳  
・シュプランガー『ドイツ教育史』（共訳）明治図書 昭和52年
- ・学会発表  
・“メタモルフォーゼ”と発達理論  
日本教育学会第35回大会 昭和51年

### ○ 研究の方向

近代以降の教育学の歴史的発展をたどり、教育の基本的諸概念の成立とそのあり方の検討をめざす。考察の中心は、ヨーロッパ特にドイツ。教育学を体系化した思想家、J. F. ヘルバルトの著作を吟味するうちに、かえって、いわゆる教育思想の枠ぐみに属さぬ思想の流れの中に、子どもの自己活動自発性を積極的に認める傾向を見出す。ライプニッツもゲーテもそれに属する。両者とも、ニュートンに代表される「近代科学」の主流からは外れており、学問の対象をたんに分析的にではなく、同時に総合的に、（そしてある程度主観的に）捉えようとする。

教育の対象となる子どもは、客観的な個物である以上に、自ら活動の主体となるのである。こうした子どもの自己活動性の捉え方が、それだけ説得力をもちうるのかを、もっと新しい時代の動きもふまえてみたい。

以上

立川 明専任講師

### I 研究活動

1974年より続けていたアメリカ大学史の研究を *The Two Sciences and Religion in Ante-bellum New England: The Founding of the Museum of Comparative Zoology and the Massachusetts Institute of Technology* (University Microfilms, Order No. 7823089, 300 pp.) としてまとめて1978年8月 ウィスコンシン大学に提出し、同大学より Ph. D. の学位を得た。その一部を本号に掲載。

**b. キリスト教教育哲学**

中川秀恭教授

**I 学会活動**

1. 1978年9月 日本基督教学会学術大会（於東海大学）に出席。
2. 78年10月 日本宗教学会学術大会（於国学院大学）に出席。

**II 著作**

1. 書評「松村克己：“根源的論理の探究”」, 『日本の神学』1978年号

**c. 教育思想史**

長 清子教授

**I 学会活動**

1. 日本イギリス哲学会年次学会に於て、シンポジウム「日本におけるイギリス思想の受容, II——小野 梓, 植木枝盛」の総合司会, 1978年4月4日～5日。於京都仏教大学。同学会理事。
2. アジア諸国のキリスト教女子大学九大学学長会議（於東京女子大学）における keynote address として“Women's Education in Asia in Next Twenty Five Years”の講演, 1978年5月2日。
3. 比較思想学会に於て、シンポジウム「比較思想とは何か?」の発題, 1978年6月11日, 於早稲田大学。
4. UBCHEA (the United Board for Christian Higher Education in Asia) の理事会に出席, 於ニューヨーク, 1978年11月13日～15日。つづいて, Goshen College, Indiana に招かれて訪問, “Christian Encounter with Asian Traditional Culture”の講演をなすと共に, ICUの元教養学部長 Dr. Carl Kreider をはじめ, 教授, 学生たちと交わる。1978年11月16日～18日。
5. 日本イギリス哲学会年次学会に於けるシンポジウム「日本におけるイギリス思想受容, III——進化論の受容」に「進化論の受容方法とキリスト教」のテーマにて発題。1979年3月30日～31日。於静岡大学。
6. 日本平和学会, 1979年度「春季沖縄研究大会」において, 「日本人の天皇観」のテーマで報告。1979年6月23日～25日, 於那覇。
7. 日本教育哲学会理事。国際文化会館評議員。同日米知的交流委員会委員等。

**II 著作****A 著書**

『天皇観の相剋—1945年前後—』岩波書店。1978年7月12日。本書は1978年11月2日, 「毎日出版文化賞」を受く。

**B 研究論文**

1. 「浮田和民の『帝国主義』論と国民教育—明治自由主義の系譜」国際基督教大学『教育研究』21 (1978年)
2. “Apostasy— A Japanese Pattern”, *The Japan Interpreter*, vol. 12, Spring 1978.
3. “Japanese Christianity: Between Orthodoxy and Heterodoxy”, *Authority and the Individual in Japan*, edited by J. Victor Koschmann, University of Tokyo Press 1978.
4. 「天皇制とキリスト教」, 『教育基本法文献選集』7 『政治教育・宗教教育』永井憲一編, 学陽書房, 1978年6月10日。
5. “Women’s Education in Asia in the next 25 years” *Asian Women*, the Asian Women’s Institute, September, 1978.
6. 「竹越與三郎の歴史観——研究ノート——」ICU『社会科学ジャーナル』第17号, 国際基督教大学社会科学研究所, 1979年3月。
7. 「進化論の受容方法とキリスト教」, 特集「明治のキリスト教と文学」II, 『文学』第47号, 岩波書店, 1979年4月。
8. 「ジョン・バチューラーとアイヌの自立——“労働のモラル”を軸に——」ICU『アジア文化研究』11, 「宗教・文化・社会——大塚久雄教授古稀記念」国際基督教大学, アジア文化研究所, 1979年5月3日。
9. 「比較思想とは何か——エートスの視点から」『比較思想のすすめ』(小泉仰, 小山宙丸, 峰島旭雄編), ミネルヴァ書房, 1979年6月15日。
10. 「日本思想史の方法——宗教思想を軸に——」『近代日本の国家と思想』家永三郎教授東京教育大学退官記念論集刊行委員会編, 三省堂, 1979年6月30日。

### III 講演, その他

1. 「日本の土着文化とキリスト教」於日本女子大学, 同大学教養特別講義第12集『日本をみつめるために』に収録, 1978年6月10日。
2. 「アジアの女子教育——廿一世紀への展望」『キリスト新聞』に連載, 1978年8月12日, 19日, 26日。
3. 書評—ベンジャミン・シュウォルツ『中国の近代化と知識人——敵復と西洋』(平野健一郎訳) 東大出版会 (Benjamin Schwartz: *In Search of Wealth and Power—Yen Fu and the West*, Harvard University Press), 『日本経済新聞』1978年8月13日。
4. エッセイ「元号問題を考える」——「世界暦と天皇暦」(上), 「普遍性と特殊性」(下), 『朝日新聞』1979年3月8日, 同9日。

### d. 比較教育学

ベンジャミン C. デューク教授

## I 研究活動

1. Research Topic: The Supreme Court: On the Governance of Education (To be published in PACIFIC AFFAIRS in 1980).
2. Field Research, England, Fall, 1978: Reorganization of Secondary Education in the U. K.,
3. Field Research, USA, Winter 1978-9: Desegregation & Busing in American Schools.

## B 教育社会学研究室

原 喜 美教授

### I 研究活動

教育社会学という、スフィンクスの性格の学問であるため、社会科学科と教育学科の両方に関連をもっている。私自身は社会科学科に所属するので、研究活動も双方にかかっていることをお断りしておく。

先ず、例年の通り教育社会学専修の学生を加え、20数名で、新潟県南魚沼郡大和町へ、8月26日から9月2日まで、農村研究に出掛けた。新幹線の開通、国際大学の招致など変貌をとげつつある大和町の実情を、学生各自の興味にもとづいて、調査を行ない農村変容の過程を多少なりとも理解できた。

私個人としては、数名の研究者と協力して、次のようなプロジェクトに参加している。

(1) アジアにおける学卒の就業構造に関する研究 (アジア経済研究所, 国立教育研究所, 東京工業大学の研究者と共に昨年引き継ぎ行なっている。)

(2) *Textile Industry and its Women Workers* (ICUと、フィリピン、アテネオ大学との国際共同研究として、2年間の計画にて行ない、既に第1回のレポートを提出した。)

(3) *The Effects of Transnational Corporations upon Women* (ハワイの East-West Center が主催して、アジア、アメリカの10か国において、主として電子産業に従事する婦人について共同研究を行なうこととなり 現在準備段階に入っている。)

4. *Mobilization and Education of Women Workers* (4月17日から約1週間、国連 Women and Development の招きにより、韓国のソウルにおいて、上記のプロジェクトの審議会に出席した。これから grass-root からの participatory research を開始することになっている。)

5. 婦人の職業による社会還元 (科研費により2年間にわたり、若い世代の職業に従事する母親を主にして研究を行ない、レポートを作成した。引続き4年制大学卒

業の女子に対して継続している。)

## II 学会発表

(1) The IX the World Congress of Sociology (Sex Roles in Society部会)  
1978年8月14日～19日スウェーデン・ウプサラにおいて、*Economic Growth and Women's Roles in Japan*.

(2) 第30回日本教育社会学会大会 1978年9月23日～25日 大阪大学において  
アジアにおける高等教育と学卒者の就業構造に関する実証的研究

研究チーム（豊田俊雄，新井郁男，梶田美春，金子元久，村田翼夫，米村明夫，原喜美）

(3) East-West Center 主催の The Effects of Transnational Corporations upon Women の会合において

*The Effect of Japan's Transnational Corporations on Women in Asia*

その他講演など数回行なった。

## III 著作

(1) 「フィリピン社会の貧困，開発・教育」『アジア文化研究11号』1979年

(2) 「フィリピンにおける高等教育の動向」その1『アジア文化』第2号1979年

(3) 「フィリピンにおける高等教育の動向」その2『アジア文化』第3号1979年

(4) 婦人の職業による社会還元に関する研究 1979年。（上記プロジェクトのレポート）

## C 教育心理学研究室

1977年12月21日に，新たに本研究室に属することになった本館4階の408号室（旧視聴覚センター）への助手室および一部実験室の移転が行われた。これにともなって旧助手室の401 EとFとは実験室・行動室として使用可能になった。

1978年5月30日に，学術振興会からの研究費によってICUを訪れている香港大学のDr. Preckerを招いて心理学談話会を開催した。“Stress, student and careers: Some problems and solution for student and faculty.”と題する講演があり，約40名の学生，教職員が傾聴した。

6月3日(土)夏季卒業生2名の卒論発表会を行なった。

9月6日～9日，恒例の心理学サマーセミナーを茨城県高萩・大心苑で開催した。分科会中心に学生64名・教員3名が参加した。

第2学期から，栗山容子氏（東京大学大学院教育学修士）が専任講師として着任された。専攻は教育心理学，特に児童の言語発達。測定と評価など。

10月5日，大学のコンボケーションにおいてニューヨーク市立大学のDr. Ausbelが次の演題で講演をされた。星野教授が紹介役となり，あらかじめ用意された英文

テキストが聴衆の一部に配付された。“Relationships between shame and guilt in the Socializing process”

第2学期より1979年夏まで、原一雄教授が研究休暇をとり、主としてアメリカのコロラド大学で研究に従事されることとなった。

年が明けて、1979年2月13日、東京女子大学教授の柏木恵子氏を招いて、心理学談話会を開催した。演題は「日米の子どもの社会化過程」で、日本とアメリカの「幼児教育共同比較研究」の成果から、母親の教育観・しつけと、子どもの知的発達との関係をさぐる興味ある報告で、30約余名の学生、教員が傾聴した。

2月22日、図書館セミナー室において、3月卒業生の卒論発表会が行われた。教員・下級生も参加し、総数約50名であった。

## 原 一 雄教授

### I 研究活動

1978年12月より USA, Colorado 州, Boulder 市の Colorado 大学行動遺伝学研究所および心理学部 Biopsychology科の Senior Post-doctorate Research Fellow として短期記憶に及ぼすニコチンの精神薬理学的研究に従事中。

### II 学会発表等

第2回 ICU 大脳生理言語学研究会 (1978年7月15日) を F. C. パン教授と共に司会し、「Functional asymmetry of the human brain and psychological models」を発表す。

### III 著 作

(翻訳) A. A. ミッチー「高等教育と世界事情」(pp. 2—16), ならびに I. プットマン Jr. 「国際学生」(pp. 17—31). 『外国教育事情』(社団法人日本私立大学連盟外国教育事情調査委員会) 7号 (特集: 学生の国際交流). 1979.

### IV その他の活動

日本心理学会『心理学研究』・『Jr. of Japanese Psychological Research』編集委員。生理心理学・精神生理学懇話会運営委員。大学基準協会一般教育委員会委員。日本私立大学連盟外国教育事情調査委員会主査。

## 星野 命教授

### I 研究活動

前年に引き続き「自我形成と母子関係に関する比較文化的研究」(科研費総合研究・代表者白井常教授) を分担し、4月下旬フィリッピン大学およびタイ王立チュロンコン大学のそれぞれの共同研究者と打合せのため出張したほか、毎月1回の都内における研究会に出席し、母親との面接結果のコンピューターによる分析を実



施した。また、在外・帰国子女の適応と教育の問題を含む「文化的同化と多様化」の研究（科研費総合研究・代表者小林哲也教授）に参加して、京都と東京で開かれた研究会に出席し、京都では、ICUの帰国学生の書いた自叙伝の分析結果を発表した。

4月からは、新たに民族学博物館（大阪・千里万博記念公園内）に作られた「心理人類学の理論的研究」班（代表者祖父江孝男）に共同研究員として参加することとなり、7月・9月・12月に行われた研究会に出席し、12月には「帰国子女の生活対応をめぐる問題」について発表した。さらに、特定研究「文化摩擦」の理論を分担している東京大学の大林太良教授の研究班に属して不定期に開かれる研究会・シンポジウムに出席し、基本文献の収集につとめた。

## II 学会発表等

1978年9月2～4日に横浜国立大学で開催された日本教育心理学会第20回総会に出席し、20周年記念行事の一つである特別シンポジウムA「教育心理学会総会20年の歴史と展望」第3分科会「人格・臨床」においてリヴェアラーの一人として、臨床の部門を担当した（同総会発表論文集S20頁）。

10月6～8日京都国際会議場で開かれた日本グループ・ダイナミックス学会主催の国際社会心理学シンポジウムに、個人発表（「国民性の比較研究」林知巳夫氏）の指定討論者として参加した。

10月14～16日に九州大学で開催された日本心理学会第42回大会に出席し、「コミュニティ心理学の基本問題」に関するシンポジウムで4人の話題提供者の発言に対する指定討論者となった。また、「パーソナリティの諸過程の異文化間研究とその方法」に関するシンポジウムでは、企画と司会を担当した。

また同じ大会では、「自我形成と母子関係に関する比較文化的研究」の成果の一部について連名発表者となった。

11月2～4日に京都繊維工業大学で開催された The First Conference of International Council of Psychologists に、日本の代表の一人として参加し、“Current major trends in psychology in Japan” と題する報告を行なった。（この内容は、1979年度に発行される。“PSYCOLOGIA” 第1号に採録されることになっている）

9月14、15両日に関西大学で開催された日本社会心理学会第19回大会に出席した。

10月25～27日に山形大学で開催された第16回全国厚生補導研究集会に出席した。

前年末に結成された首都圏心理臨床懇話会の世話人の一人として、3か月に1回開かれる例会に出席した。

人間行動・人格形成と文化的要因との関連に関心ある研究者を集めて「文化と人間の会」を結成し主宰した。在外帰国子女の問題・異文化適応のための訓練計画・社会言語心理学などの研究成果をめぐって討論に参加した。

### Ⅲ 著 作

「集団の過程」、『現代社会心理学』（安倍北夫・島田一男監修）、ブレーン出版、1978、65-80頁。「人格心理」、『人間科学としての心理学』（沢田慶輔／古畑和孝（共編）、サイエンス社、1978、190-214頁。「現代悪口論——けんかことばの諸相と原理——」、『言語生活』321号、1978、6、18-32頁。「仮想討論会“教育心理：人格の形成と変容（オルポート）」、『教職課程』10号、1978、7、76-79頁。「自分を動物に見たてるとき」、『月刊ことば』、1978、7、43-48頁。「青年であるがゆえのなやみ!？」、『青年心理』9号、1978、7、33-42頁。「豊かな感情——その人格心理学的考察——」、『児童心理』32巻12号、1978、12、1-16頁。「“甘え”の構造を生み出す背景」、『教育と医学』、27巻1号、1979、1、27-34頁。

### Ⅳ そ の 他

前年度に引き続き、日本心理学会編集委員、日本社会心理学会常任理事、日本学生相談研究会理事をつとめた。

次の諸大学、集会などの講師をつとめた。聖心女子大学文学部「集団の過程」および「個人間および異文化間コミュニケーション」（通年非常勤）、東北大学文学部「人格社会心理学特講」（7月22～27日集中講義）、熊本大学教育学部「人格心理学特講」（7月10～14日同上）、北陸学院短期大学保育科「精神衛生」（11月25～29日同上）、キリスト教保育連盟北陸地区保育大会にて講演。（6月11日石川県立会館）、香川県高等学校教育相談部会夏季カウンセリング研修会（8月2～5日於高松「栗林荘」）講師。婦選会館心理学教室（5月、11月、第3回）講師。

- ・山王教育研究所カウンセリング研究会（11月11日於品川文化会館（「クロス・カルチュラル カウンセリングについて」講演。
- ・三鷹市青少年協議会（11月）「最近の青少年の自殺と非行について」講演。
- ・第16回全国学生相談研修会（12月4～6日於国立教育会館）グループ・ファシリテーター。

### 都留春夫教授

#### I 研究活動等

(1) 国際基督教大学国際教育交流室長としての業務が多忙になり、その関係の仕事に時間を使うことが多くなっている。

海外出張としては、1978年3月末に Association Christian University and Colleges in Asia 主催の連絡会議に出席の後、フィリピンの Ateneo de manila 大学、Silliman 大学、香港の中文大学崇基学院、韓国の延世大学を訪問した後4月中旬に帰国した。

また、1979年5月2日より24日まで米国各地の大学を訪問し、交流計画について関係者と意見の交換をした。訪問先の大学は次の通り（訪問順）

University of California at Santa Brbara  
 University of California at Los Angeles  
 Southwestern College (Winfield- Kansas)  
 Wartburg College (Waverly, Iowa)  
 University of Pennsylvania (Philadelphia)  
 State University of New Ynrk at Buffalo  
 Wesleyan Collge (Macon, Georgia)  
 Grand Valley State Colleges (Allendale, Michigan)

なお、上記諸大学の他、次の諸財団や大学の関係者をも訪問した。

Japan International Christian University Foundation.

Aquinas Fund.

Council on International Edecational Exdange

University of Chicago

University of Minnesota

国際教育交流計画は今後ますます発展する可能性があり、学生交流から教授の交流、更に共同研究計画への進展が考えられ、徐々にそれに関連した研究をはじめている。

(2) 教育および心理学の関係では、カウンセリングや小集団活動の実践を通して、集団内の成員のうごき、リーダーシップ、対人関係などの研究を続行している。

(3) 昨年に引つづき、PCA ウォークエンド、グループ・カウンセリング、ケース研究、文献研究グループ、リーダー学習会などを計画実施した。

(4) 1979年4月より1年間、青山学院大学、大学院講師として、臨床心理学研究 I・IIを担当している。

## II 学会活動、講演等

### A 学会関係

(1) 日本心理学会第42回大会(九州大学、1978年10月中旬)に出席、University of Chicago の Dr. Eugene T. Gendlin による特別講演の通訳をつとめた。機関誌「心理学研究」掲載論文の英文アブストラクト数篇の校閲をした。

(2) 引きつづき日本教育心理学会機関誌「教育心理学研究」の編集協力委員をつとめている。

### B 講演等

(1) 「すこやかないのちと病むいのち」、東京セルフの会、1978年6月18日。

(2) 「健やかさとの出会い」長野県教育センター、1978年8月2日。

(3) 「さわやかさとの出会い——援助と教育について——」、東北学院大学、1978年11月25日。

## C 研修会, 学習会等

(1) カウンセリングワークショップ, 1978年7月28日, 全日本カウンセリング協議会主催。

(2) 映画会「Because That's My Way」, 1978年8月5日, 日本, 精神技術研究所主催。

(3) 「自己理解のためのグループ合宿」, 第12回, 1978年8月30日～9月4日; 第13回, 1979年3月31～26日, 東京大学学生相談所主催。

(4) フォーカシング九州ワークショップ, 1978年10月17～19日, 九州大学教育学部心理学教室主催。

(5) フォーカシング東京ワークショップ, 1978年10月28～29日, 全日本カウンセリング協議会主催。

(6) 国立療養所幹部看護婦(リーダーシップ育成)研修会, 1978年11月17～27日, 厚生省国立療養所課主催。

(7) 第15回大学教育懇話会, 1978年12月15～17日, 大学セミナーハウス主催。

## III 著作・執筆協力等

(1) 『カウンセリングとしての「なかまづきあい」(その6)——久し振りにアジアを旅して気づいたこと——』, 雑誌「カウンセリング」, vol. 10—2 (No. 40), '78・7～14頁。

(2) 『「なかまづきあい」を求めて(その7)——PCA合宿ウイークエンドの報告——』, 雑誌「カウンセリング」, vol. 10—3 (No.41), '78・10, 7～14頁。

(3) 『「なかまづきあい」を求めて(その8)——なかまづきあいとカウンセリング——』雑誌「カウンセリング」, vol. 10—4 (No.42), '79・1, 10～14頁。

(4) 『「なかまづきあい」を求めて(その9)——よめない, きけない, はなせない——』, 雑誌「カウンセリング」, vol. 11—1 (No.43), '79・4, 15～17頁。

(5) 『病気とのつきあい』(その1), 雑誌「総合看護」, 第14巻(1979)第1号, 30～41頁,

(6) 『病気とのつきあい』(その2), 雑誌「総合看護」, 第14巻(1979)第2号, 105～115頁。

(7) 『話し合いのできる教師——克服すべきものは何か——』, 雑誌「児童心理」第32巻第10号(1978年10月号), 69～74頁。

(8) 『人間成長への叱りの役割——叱ることは欲求不満耐性を高めるか——』, 雑誌「児童心理」, 第33巻第7号(1979年6月号), 94～100頁。

(9) 『管見したフィリピンの学生生活』, 雑誌「厚生補導」, 159号(1979—9), 12～17頁。

(10) 『よくあきらめ生をたのしむ』, 雑誌「教育と医学」, 第26巻(No.301), 1978

年7月号。

(1) 『日本の私立大学における国際交流——国際基督教大学』, 「外国教育事情 (第7号) ——特集・学生の国際交流」, 日本私立大学連盟外国事情調査員会編, 第IV部第3章, 1979年, 131~138頁。

(2) 対談, 『海外研修の状況——国際基督教大学の場合』, 「国際社会への対応——大学教育の一視点」, 東海大学学生生活研究所編, 1979年, 177~184頁。

(3) 執筆協力: 二木久恵・岩本幸弓訳 (M. N. Blondis & B. E. Jackson 著), 「患者との非言語的コミュニケーション——人間的ふれあいを求めて——」, 医学書院発行, 1979年。

### 栗山容子講師

#### I 研究活動

(1) 生後8ヶ月より2歳までの子どもの認知の発達を実験調査中。

### 向井敦子(助手)

#### I 研究活動

1) 状況特性と関連した行動の発現・展開・終止の様相を, 状況特性に対応した行動の再調整の過程であると仮定して 筆者等の作成した心理学的行動座標を用いた研究を継続している。

2) 1976年2月生れの女兒H. M. と, 1979年1月15日生れの女兒A. M. を対象にした縦断的な行動観察を継続している。

#### II 学会発表

1978年9月, 日本教育心理学会第20回総会(於横浜国立大学)において, 「対人態度の形成過程についての実験的探索 I 協同と競争の状況特性を媒介として成立しうる対人態度形成過程の様相について, II 協同状況を媒介した時の状況特性の制程度に対応して成立しうる対人態度の様相について」を発表。(口頭発表者はIは都立国立高校深谷澄男氏, IIは向井)(同論文集, 486~489頁)

1978年10月, 日本心理学会第42回大会(九州大学)において, 「役割演技状況における行動展開様相と態度変化との関係」を発表。(同論文集, 1318~1319頁)

#### III 著作

「準拠集団と道徳性の発達(第3報告)交友選択の範囲及び対人態度と準拠人・道徳判断の類似性」国際基督教大学学報I—A 教育研究, 1978, 21, 57~78頁(古畑和孝非常勤講師との共著)

### 明田芳久助手(非常勤)

#### I 研究活動

1) 子どもの道徳性発達の心理学的基礎について、実験社会心理学的視点から研究。

2) 外国語教育の学習心理学的基礎の研究、ならびに中学校英語科授業の授業分析の試み。

3) 心理学実験論文講読会（ICU）、道徳発達研究会、社会心理学研究会（東京大学）に参加。

4) 東京神学大学（教育心理学）、桐朋学園大学短期大学部（社会心理学）で非常勤講師。

## II 学 会

1) 日本教育心理学会第20会総会（横浜国立大学、1978年9月4日～6日）、日本心理学会第42回大会（九州大学、1978年10月13日～16日）、国際社会心理学シンポジウム1978（京都国際会議場、1978年10月6日～8日）に参加。

## III 著 作

1) 「適応・不適応」、「同調」細谷俊夫他（編）『教育学大事典4』、第1法規、1978、pp. 297～299、355～356。

2) 「行動主義学習理論における認知心理学」羽鳥博愛、伊村元道（編）『教育学講座9 外国語教育の理論と構造』、学研、1979、Pp. 221～235。

3) 「発達と学習」、「幼児期の心理」、「(解説)ピアジェの道徳発達理論に関する諸研究」芳賀純（編訳）『ピアジェ研究I』誠信書房（印刷中）

### 西沢雪乃助手（非常勤）

#### I 研 究 活 動

1) 都留春夫教授の指導のもとに、幼児の概念発達に関して研究している。卒論「幼児の重さの保存を構成する諸基準の形成とその関係づけについて」（1978.3提出）をもとに、その延長として修論の研究を行なっている。

2) 国立精神衛生研究所精神衛生部において、山本和郎心理室長の指導のもとに、自閉症児を対象とした地域精神衛生活動に参加している。

### 土谷良巳助手（非常勤）

#### I 研 究 活 動

1) 原一雄教授の指導のもとに、アカゲザルの交信行動に関する生理心理学的研究を行なった。本研究は、被験体の組織学的検討を行なった上で終了する。

2) 1978年9月より、(財)重複障害教育研究所（梅津八三所長、中島昭美理事長）において、梅津八三所長、譚文恵指導員による重複障害児5名に対する実践活動に参加、観察することによって「行動調整における構成信号系の機能に関して、

行動体制特性という観点からの研究」を行なった。

3) 昨年に引き続き、国立精神衛生研究所にて、精神衛生部心理室長山本和郎先生の指導のもとに、自閉症児を対象にした地域精神衛生活動に参加する中で、自閉症児S Tと実践的に関わっている。

4) 昨年に引き続き、「知覚・認知機能の発生における言語信号系の役割」、及び「チンパンジーの言語習得訓練」を主題とする文献研究を行なった。この中には学部生、他大学生との研究会として活動したものもある。

## II 学会発表等

1) 日本教育心理学会第20回総会（横浜国立大学，1978年9月4日～9月6日）に参加した。

2) 日本心理学会第42回大会（九州大学1978年10月13日～10月16日）にて、「アカゲザルの交信行動の形成」（日本心理学会第42大会回発表論文集 pp. 448～449）原 一雄教授と連名で発表し、土谷が口頭発表を行なった。

3) 東京都立大学の社会心理学研究会にて、1978年12月6日、「アカゲザルの交信行動の形成——とくに信号系特性にもとづく分析」を発表し、討議に参加した。

4) 日本動物心理学会第39回大会（名古屋大学，1979年6月2日～3日）に参加した。

## D 視聴覚教育研究室

視聴覚教育研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会（会長布留武郎客員教授）及び日本放送教育学会（会長西本三十二名誉教授）の合同大会が、1978年11月11、12の両日、玉川大学文学部で開催された。当研究室から教職員、大学院学生全員が参加した。

1979年4月より中野照海教授は大学院部長に就任し、阿久津喜弘教授は一年間の研究休暇をとっている。

### 布留武郎客員教授

#### I 研究活動

「TVと社会化」のタイトルに包括される海外特にUSにおけるぼう大な研究報告を概観するための資料蒐集と解題の作業を博士課程院生の協力のもとに行いつつある。

#### II 学会発表

社会心理学会（1978年度）において「児童のテレビ視聴パターンと関連する個人差及び家族関係の変数について」発表。

#### III 著作

「児童の認知型と関連する変数について」(飯塚泰弘共著),『ICU教育研究』, 21,79~107, 1978.

「児童のテレビ視聴パターンと関連する個人差及び家族関係の変数について」(飯塚泰弘共著),『ICU教育研究』, 21, 109~128, 1978.

「メディア行動」,『教育学大事典』第5巻, 214~215, 第一法規出版, 1978.

### 中野照海教授

#### I 研究活動

1) 1978年度放送文化基金による「映像の教育的効果とその利用に関する研究」(波多野完治代表)に参加。

2) “Functions of Instructional Media” Seminar on Educational Broadcasting, NHK-JICA, September 27, 1978 を講義。

3) Regional Committee on Information, Education and Communication, IPPF, April 6-9, 1979, Kuala Lumpur に参加。

4) “Application of Programmed Learning Principles and Technique in Family Planning”, International Seminar on IEC for Family Planning, June 13, 1979, Tokyo を講義。

5) 「多重放送と教育的可能性」9月18日, NHK技術研究所, 「教育放送をめぐる諸問題」8月18日, 国立婦人教育会館, 等で講演。

#### II 著作

1) 編著『教育工学 教育学講座第6巻』学習研究社 1979年4月

2) 共編著『視聴覚教育の理論と研究』日本放送教育協会 1979年5月

3) 編集委員・項目執筆『新教育の事典』平凡社 1979年4月

4) 共著「教育イノベーションを規定する要因の概観」『日本教育工学雑誌』3(2), 1978年10月 79~92ページ。

5) 「ティーム・ティーチングの理念と方法」『高校教育展望』1978年12月 98~103ページ。

6) 「教育工学の課題と実践」『教育と情報』1979年7月 8~13ページ

#### III その他

日本視聴覚教育学会常任理事・編集委員

日本放送教育学会常任理事・編集委員長

IPPFアジア・オセアニア地区常任委員

NHK学校放送地方諮問委員会委員

日本語学ラボラトリー学会評議員

「日本教育工学雑誌」常任編集委員・編集幹事



教育放送審議会（文部省）委員  
日本教育工学協会理事

### 阿久津喜弘教授

#### I 研究活動

- 1) 日本社会心理学会第19回大会（1978年9月14日・15日関西大学）において、共同研究「流行歌の内容分析」を発表。
- 2) 日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会の合同大会（1978年11月11日・12日玉川大学）において、共同研究「学校放送普及要因の分析」（中間報告）を発表。
- 3) 昭和52年度後期放送文化基金の助成による共同研究「学校放送の受容・遂行構造に関する実証的研究」を実施し、その研究報告書を作成、1979年1月に放送文化基金へ提出。

#### II 著作等

- 1) "The Japanese Path Toward an Information Society". In A. S. Edelstein and others (eds.) *Information Societies*, International Communication Center, Univ. of Washington, 1979, pp. 191~193.
- 2) 「情報処理と視聴覚教育」大内茂男・高桑康雄・中野照海編『視聴覚教育の理論と研究』日本放送教育協会、1979年5月、342~347頁。
- 3) 「相互やりとりの過程」『特別活動』11巻7号、1978年7月、12~15頁。
- 4) 「学校・教師の変革をめざして——教育イノベーション研究の動向(1)~(4)」(共同執筆)『視聴覚教育』32巻2号~5号、1978年2月~5月、24~27, 24~29, 36~41, 36~40頁。
- 5) 「小学校における学校放送利用要因の分析」(共同執筆)『放送教育研究』第8号、1978年、47~65頁。
- 6) 「新しい教育技法の導入・遂行を規定する諸要因」『学習指導研修』第14号、1979年5月、24~27頁。
- 7) 「子どもの創造性とその育成(1)・(2)」(座談会)『理科の教育』27巻10号・11号、1978年10月・11月、9~20, 9~14頁。
- 8) 「いま市販されている性教育教材の選び方・使い方と問題点」(討論)『現代性教育研究』第31号、1978年12月、59~67頁。
- 9) 『教育学大事典』(共編)、第一法規、1978年7月。

#### III その他

日本視聴覚教育学会理事編集委員。  
日本放送教育学会理事・編集委員。  
日本教育社会学会編集委員・国際交流委員。

## 石本菅生助教授

## I 研究活動等

- 1 現在 C A I による, 言語概念学習の実験的研究を行っている。
- 2 日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会合同大会 (1978年11月11, 12日, 於玉川大学)において「日本語学習のための C A I の試行とシステムの開発(1)」を発表。
- 3 『視聴覚教育の理論と研究』(日本放送教育協会, 昭和54年5月刊)に「教師教育と視聴覚メディア」を執筆。
- 4 『教育学講座(6)教育学』(学習研究社, 昭和54年4月刊編者中野照海)「第V章教授メディア・教材・方法の概念」の6, 7節を執筆。
- 5 『新教育の事典』(平凡社, 昭和54年4月刊)の項目執筆。

## II その他

『日本教育学雑誌』編集委員

## 飯塚泰弘助手 (非常勤)

## 研究活動等

- 1) 著作「児童の認知型に関連する変数について」(布留武郎教授と連名)『ICU教育研究21』, 1978年3月, 79~107頁。
- 2) 著作「児童のテレビ視聴パターンと関連する個人差及び家族関係の変数について」(布留武郎教授の連名)『ICU教育研究21』, 1978年3月, 109~128頁。
- 3) 1978年9月, 日本社会心理学会第19回大会(於関西大学)において「テレビ視聴パターンと関連する個人差及び家族関係の変数について」を布留武郎教授と連名で発表(発表論文集48~49頁所載)。
- 4) 著作「子どもの遊びとテレビ視聴に関する調査研究」(共)日本余暇文化振興会, 1979年3月。
- 5) 統計数理研究所公開講座「数量化」(1979年5月~6月)に参加。

## 浜野保樹助手 (非常勤)

## I 研究活動

- 1) 昭和52年度後期放送文化基金の助成による「学校放送の受容・遂行構造に関する実証的研究」(代表者・阿久津喜弘教授)に参加。
- 2) 1978年6月, Seminar on Information, Education and Communication in Family Planning (於家族計画国際協力財団)に Observer として参加。
- 3) 1978年7月~10月, I. E. C. 研究会(於家族計画国際協力財団)に参加。

## II 学会発表等

1) 1978年9月14日, 日本社会心理学会第19回大会(関西大学)において, 阿久津喜弘教授と連名で「流行歌の内容分析」を発表(同学会論文集, 44~45)。

2) 1978年11月11日, 日本視聴覚教育学会第15回・日本放送教育学会第23回合同大会(玉川大会)において, 「教授メディア研究動向の分析」を発表(同学会論文集, 15~16)。

3) 1978年11月11日, 日本視聴覚教育学会第15回・日本放送教育学会第23回合同大会(玉川大学)において, 平井出けい子・大川博見と連名で「発展途上国のFPプログラムにおける視聴覚機器利用について」を発表(同学会論文集, 17~18)。

4) 1978年11月12日, 日本視聴覚教育学会第15回・日本放送教育学会第23回合同大会(玉川大学)において, 阿久津喜弘教授らと連名で「学校放送普及要因の分析(その1)」を発表(同学会論文集, 35~36)。

### III 著 作

1) 「学校・教師の変革をめざして(4)」阿久津喜弘, 生田孝至, 浜野保樹, 平井出けい子, 『視聴覚教育』32(5), 1978, 36~40頁。

2) 「教育イノベーションと学校組織」, 『ICU教育研究』21, 1978, 129~144頁。

3) 「小学校における学校放送利用要因の分析」阿久津喜弘, 生田孝至, 高橋守人, 浜野保樹, 平井出けい子, 『放送教育研究』第8号, 1978, 47~65頁。

4) 「文献紹介: S. Milgram & R. L. Shotland, Television and Antisocial Behavior, 1973」, 『放送教育研究』第8号, 1978, 67~71頁。

5) 「文献紹介: J. S. レッサー著, セサミストリート物語, 1976」, 『視聴覚教育研究』第8・9号, 1978, 94~101頁。

6) 「演劇」, 「子ども劇場」, 『教育学大事典』, 第一法規, 1978。

7) 『学校放送の受容・遂行構造に関する実証的研究: 教育イノベーションとしての学校放送の利用要因分析』, 阿久津喜弘, 生田孝至, 高橋守人, 浜野保樹, 平井出けい子, 1979。

8) 「教育イノベーションを規定する要因の概観」, 浜野保樹, 中野照海 『日本教育工学雑誌』3(2), 1978, 79~92頁,

9) 「家族計画のIEC活動における各種メディア利用の現状とその問題点」浜野保樹, 平井出けい子, 『視聴覚教育研究』第10号, 1979, 65~81頁。

### IV そ の 他

日本教育社会学会研究部員。

武蔵野美術大学非常勤講師(社会教育概論, 視聴覚教育)。

## E 理科教育研究室

ロナルド・リッチ教授が新しい任につくため, 1979年2月をもって辞任し帰国さ

れた。教室の行事として、1978年6月19日宮城教育大教授・鈴木清竜先生による「授業と科学」と1979年3月5日新宿区立戸塚第一中学校教諭松井吉之助先生による「化学基礎教授法」と題する講演会が催された。

### 三宅 彰教授

#### I 研究活動その他

- 1) 昭和53年度文部省科学研究費補助金の総合研究(A)「高分子における相互作用と分子運動の理論的研究」の研究代表者。分担課題は「高分子における分子運動と緩和現象の研究」。研究連絡会を箱根静雲荘で1979年3月20~22日に主催。
- 2) 広島大学大学教育研究センター客員研究員として、研究員集会「地域社会と大学」1978年10月30日~11月1日(広島・西条)に参加。同センターの「大学の国際化に関する総合的研究」の研究分担。
- 3) 日本物理学会副会長(1977年9月~1978年8月)。応用物理学欧文誌刊行会役員(副委員長:1978年4月~1979年3月,委員長:1979年4月~1980年3月)。
- 4) ICU教育研究所長として岡山大学教育学部教育工学センター見学(1979年2月26日)。

#### II 学会発表等

- 1) 高分子学会年次大会(1978年5月24日,名古屋):孤立鎖の拡がり。
- 2) 神奈川県立教育センター理科教室(1978年5月30日):エネルギーとエントロピーについて。同理科教育講座(1978年9月7日):熱と仕事
- 3) 日本物理学会分科会(1978年10月5日,静岡):排除体積効果と流体力学的相互作用(高分子シンポジウム「高分子系における分子間相互作用と転移現象」の特別講演)。
- 4) 日本物理学会年会(1979年3月31日,大阪):高分子セグメント間相互作用の濃度依存性。

#### III 著作・論文

- 1) A Lattice Theory of the Chain Dimension: Repts. Progr. Polymer Phys. Japan 21 (1978) 27~28
- 2) Average Fourth Power of the End-to-End Distance of a Hindered-Rotation Chain: *ibid.* 21 (1978) 23~26
- 3) Theory of Twisted Stiff Chains, V: *ibid.* 21(1978)29~32 (A. Miyake and Y. Hoshino).
- 4) Theory of Twisted Stiff Chains, I: J. Phys. Soc. Japan 46 (1979) 1324~1332 (A. Miyake and Y. Hoshino).
- 5) Theory of Twisted Stiff Chains, II: *ibid.* 47 (1979) 942~946 (A. Miyake and Y. Hoshino)

## 石川光男教授

## I 研究活動

1. 生体高分子に対する放射線効果
2. 高分子電解質の溶液中における形態変化
3. 物理学習における総合的評価問題の開発と分析（昭和54年度文部省科学研究費による研究）
4. The Seventh International Conference on the Unity of the Sciences に出席，於ボストン，1978年11月24日～26日。

## II 著作

1. （翻訳）「光学」（オックスフォード物理学シリーズ 14），丸善，1978年5月。
2. Helix Destruction and Molecular Weight Changes in Poly-L-Glutamic Acid by X-rays, and UV Irradiation ; J. Radiat. Res. 19 (1978) 20, (M. Ishikawa, K. Takakura)
3. Decrease in Helix Content of PLGA Caused by X-rays and Ultra-Violet Light" (II) ; Rep. Prog. Polymer Phys. Japan, 21 (1978) 579 (K. Takakura, M. Ishikawa)
4. The Conformational Transition of Styrene-Maleic Acid Copolymer Studied by NMR Measurements (II) ; Rep. Prog. Polymer Phys. Japan, 21 (1978) 449 (K. Takakura, M. Ishikawa)
5. 「宗教と科学の補完性」, 『アカデミー』第14号, 1979年4月
6. （翻訳）「第5の科学革命へ」, 『アカデミー』第14号, 1979年4月
7. 「科学と宗教の対話」, 『世界日報』, 1979年4月～6月

## 柿内賢信教授

## I 研究活動

- (1) 水および水溶液の履歴現象に関する研究（赤外線吸収, NMRおよび粘性測定）
- (2) 言語と思考に関する研究
- (3) 学習のなかの思考の過程に関する研究

## II 学会その他社会活動

- a) 財団法人俱進会理事長
- b) 日本科学教育学会顧問  
同編集委員会委員
- c) 大学設置審議会委員
- d) 大学基準協会委員
- e) 宗教音楽研究所理事

## III 論文・著作

学習のなかの思考過程, 日本物理学会誌1978, 1月号

Physics for Inquiring Mind, Tabled Paper, International Conference of  
Physics Education (Oxford, 1978)

同定と分別におけるアンビバレンス, 科学基礎論研究14巻1号(1979) p. 9

二重真理について, アジア文化研究(ICU), 大塚教授古稀記念論文集(1979) p. 19

The Hope and Difficulties in Science and Technologies in Japan,  
Report, WCC Conference on "Faith Science, and the Future".  
Document #7 B (1979)

ドナルド・C・ウォース教授

## 研究活動

Solar Energy Research and Development-Thermal and Electrical Utilization

勝見允行教授

## I 論文発表

1. Katsumi, M and H. Kazama, Gibberellin Control of Cell Elongation in Cucumber Hypocotyl Sections, Botanical Magazine, Tokyo, Special Issue : 1 : 141~158 (1978).
2. Kazama, H. and M. Katsumi, Light-controlled Sugar-Starch Interconversion in Epidermal Chloroplasts of Light-grown Cucumber Hypocotyl Sections and Its Relationship to Cell Elongation, Botanical Magazine, Tokyo 91 : 121~130 (1978).
3. — and —, Effects of Light on Auxin-induced Elongation of Light-grown Cucumber Hypocotyl Sections, Plant & Cell Physiology 19 : 1137~1144 (1978).
4. — and —, The Role of the Osmotic Potential of the Cell in Auxin-induced Cell Elongation, *ibid.* 19 : 1145~1150 (1978).
5. Katsumi, M. and Y. Yamamoto, The Relationship of Some Glycosidases to the Endogenous and IAA-induced Growth of Light-grown Cucumber Hypocotyls, Physiologia Plantarum 45 : 45~50 (1979).

## II 学会発表等

1. 勝見允行・河村紀子・風間晴子, ジベレリンのキウリ下胚軸伸長作用における子葉の役割。日本植物学会第43回大会(1978年10月)。
2. 風間晴子・勝見允行, ジベレリン—オーキシン細胞伸長作用におけるリンゴ酸の関与。日本植物生理学会1979年度年会。

3. 勝見允行, 植物培養細胞と生理活性物質。「文部省特定研究」生物の生産機能の開発, 講演 (1978年10月).
4. 勝見允行, 植物ホルモンの作用機作——最近の研究動向——, 農薬と生理活性物質 (産技研講座) 1979年2月.

### Ⅲ 著 作

1. 高等学校教科書 生物Ⅱ, 三省堂 (共著)

山口俊夫教授

#### I 研究活動

骨格筋の興奮収縮連関について

滝川洋二 (非常勤助手)

#### I 著 作

理科教育の発展過程 (降旗 編著『理科教師をめざす人の為に』) 一ツ橋書店  
1978年4月, 37~65頁。

## F 英語教育研究室

英語教育関係職員による行事は次の通りである。

- 1978年8月7日~12日 第3回 I C U言語科学夏期講座  
第3回幼児言語学 Symposium  
第5回言語社会学 Symposium
- 1978年8月29.30日 第17回 I C U夏季言語学研究会
- 1978年8月30日 英語教育専攻の卒業生, 在校生の懇親会 (シーベリチャペル)

### 言語学研究室

井上和子教授

#### I 研究活動

昭和53年度科学研究費補助金 (特定研究「言語」(2), 試験研究) を文部省より交付され, 次の研究課題のもとで, 研究会を開き, シンポジウムに参加し, その結果を報告書としてまとめている。研究課題: 日本語の基本構造に関する理論的実証的研究, 漢字教育のための C A I プログラムの開発と効果測定 (いずれも研究代表者)

#### 著 作

- (1) "Review, Shibatani, Masayoshi (ed) *Japanese Generative Grammar* (Syntax and Semantics, Vol, 5) (New York: Academic Press, 1976). *The Modern Language Journal* Vol, LXII, No. 1-2, 68-9. (National Federation of

Modern Language Teachers' Association)

- (2) 『日本語の文法規則』 x + 268頁 (大修館書店)
- (3) "On Animate Subjects," in I. Koike, M. Matsuyama, Y. Igarashi and K. Suzuki (eds.) *English Teaching in Japan*, 629-47. Kaitakusha,

小林栄智教授

I 研究活動

古英語, 中英語に関して

II 著作

- a. "On the 'Lost' Portions in OE *Apollonius of Tyre*," in *Explorations in Linguistics: Papers in Honor of Kazuko Inoue*, 研究社, 243~49, 1979
- b. *English Drills in 30 Days: Listening and Reproducing*.  
コロンビア, 学芸部, 1979
- c. 『新英和辞典』編集中 (with others)

III その他

英潮社の London Seminar in English Language に出席 (1979年1月3日~10日)

村木正武教授

I 著作

1. "Sentential Pronominalization and Precyclic Lexical Insertion," *Annual Reports of Language Division, ICU* 3, 127~130.
2. "Sikanai Construction and Predicate Restructuring," in John Hind and Irwin Howard (eds) *Problems in Japanese Syntax and Semantics*, Kaitakusha, 155~177.
3. "Review: Masaaki Yamanashi, 1977, *Generative Semantic Studies of the Conceptual Nature of Predicates in English*," Kaitakusha, Tokyo," 『英語学』19, 95~111.
4. 『意味論 (現代の英文法第2巻)』東京: 研究社。pp. xiv+442. (斎藤興雄と共著)

F. C. バン教授

I 研究活動

- a. 第3回 ICU 幼児言語学シンポジウム (企画者) 1978年7月22日~23日
- b. 第5回 ICU 言語社会学シンポジウム (企画者) 1978年7月29日~30日
- c. 第3回 ICU 言語科学夏期講座 1978年7月22日~8月4日
- d. The First International Congress for the Study of Child Language. (Organizer) 1978年8月7日~12日



e. 第1回 ICU 大脳生理言語学研究会（企画者）1978年7月15日

## II 研究発表

bにて、『男性語について』

eにて、“The Place of Neurolinguistics in Language Sciences: A Policy Statement.”

## III 著書

- 1) Sign Language and Language Acquisition in Man and Ape : New Dimensions in Comparative Pedolinguistics, AAAS, Washington D. C.
  - 2) 「言語社会学」現代の英語教育—2『英語教育と関連科学』, 研究社。
  - 3) 「手話」『国語年鑑, 昭和54年版』国立国語研究所。
  - 4) *Language Sciences*, 1978~79 Vol. I. No. 1. とNo. 2 (編)
- 他, 論文数点

リチャードリンディ教授

## I 研究活動

- 1) 1977年より文部省から科学研究費を受けて「言語」を共同研究するグループに属し, 1978年には研究主任として「日本人の読解力の調査」をした。( *Annual Reports, Div. of Languages. ICU. Vol. 3. 1978. pp 85~114.* 及び *Annual Reports, Div. of Languages. ICU. Vol. 4. 1979. pp 1~26.* )
- 2) 1978年8月, クリスチャン学校 Coucil Seminor で“英語教授法”を担当した。

## 2. 大学院教育学研究科修士論文

### 1979年3月卒業者

#### A. 教育哲学

門馬 啓子 杉山元治郎の農民運動とその教育思想 ——「土地」と「自由」を求めて——

山口 和孝 近代日本における宗教教育行政の系譜

#### B. 教育心理

野本 敬子 ある自閉児に対する数の操作と言語行動を中心とした治療教育の試み

栗原 和彦 破瓜型分裂病者2例の「安定」状態を支える精神力動とその変遷, 及びそれらを促進する対象関係的要因について ——ロールシャッハテスト及び直定面接による——

西沢 弘 認知的包摂過程における既有知識と先行オーガナイザーの役割  
——「化学平衡」を一例として——

**C. 視聴覚教育法**

川上千加男 対人関係に於ける役割移入と感情移入に関する一考察

**D. 英語教育法**

中内 順子 “A Study of Imagery in *COMUS*”

竹中 順子 “Topicalization and the X theory”

大橋裕美子 “Aspects of English Nursery Rhymes: the Archetypal and Unique”

**E. 理科教育法**

深井 隆夫 中等レベルにおける力の概念の形成過程

**1979年6月卒業者**

**A. 教育哲学**

加藤 敏枝 ヘルバルト教育学の研究 ——教育的教授論の形成を中心として——

**B. 教育心理学**

関野 和美 海外帰国生の適応過程 ——四人の大学生の場合——

**C. 視聴覚教育法**

北条 礼子 英語のテスト技法としてのクローズ法に関する実証的研究

**D. 英語教育法**

木下 裕昭 “The Semantics of Pretend-Sentence”

松浦 育代 “A Study of the Relative Constructions in *Beowulf*”

齊藤由美子 “A Study of Poetic Experience: with Special Reference to W. H. Auden’s *The Sea and the Mirror*”

平田為代子 “A Study of Nominal Structure: A Case Study of Japanese in Contrast with English”

本田 盛 “Verb Phrase Delection and Gapping: A Contrastive Study of English and German Syntax”

### 3. 教育実習報告

1978年度の教育実習には、121名（都の受入数43名うち1名辞退）の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

#### 1. 実習生総数 121名

男子 38名

女子 83名

#### 2. 実習日程

1978年5月7日～5月20日 千葉大教育学部附属中（千葉）  
野田市立第一中（千葉）

5月8日～5月20日 桐蔭学園高（神奈川）

5月15日～5月27日 大分市立坂ノ市中（大分）  
鼎が浦高（宮城）

5月26日～6月8日 尚絅女学院高（宮城）

5月29日～6月10日 山形北高（山形）、聖学院高（東京）

6月1日～6月14日 長野西高（長野）、暁星高（東京）

6月5日～6月17日 三鷹市立第一中、三鷹市立第三中、三鷹市立第六中、  
小金井市立第一中、小金井市立南中、小金井市立緑中、  
調布市立第三中、調布市立第七中、調布中、世田谷区  
立八幡中、杉並区立宮前中、青梅市立第一中、足立区  
立第四中、品川区立荏原第一中、大田区立蓮沼中（東  
京）厚木市立睦合中（神奈川）、市立鴨川中（千葉）  
市立竹原中（広島）、市立石井中（岡山）、市立代虎中  
（和歌山県）都立三田高、都立広尾高、都立西高、都  
立小石川高、都立日野高、都立立川高、都立町田高  
（東京）  
県立小千谷高（新潟）、県立青森高（青森）、北陸学院  
高（石川）、成城学園高（東京）、共愛学園（群馬）、  
福山誠之館高（広島）、県立富岡西高（徳島）、県立前  
橋女子高（群馬）、県立川越女子高（埼玉）、共立女子  
第二高（東京）、貞静学園（東京）、府立寝屋川高（大  
阪）、芝学園（東京）、青山学院高等部（東京）、明治  
大高附属中野高（東京）、麻布学園（東京）

- 6月8日～6月21日 順心女子学園（東京）
- 6月9日～6月22日 県立首里高（沖縄）
- 6月12日～6月24日 武蔵野市立第一中，武蔵野市立第三中，武蔵野市立第四中（東京），山口大附属光中（山口），雙葉中（東京），九州学院高（熊本），南山中高（愛知），県立川崎北高（神奈川），清真学園（茨城），桜美林高，聖心女子学院（東京）
- 6月19日～7月1日 藤女子高（北海道），県立秋田高（秋田），宮城県第一女子高（宮城），県立川崎高（神奈川），県立熊本高（熊本）
- 6月26日～7月8日 小林聖心女子学院（兵庫）
- 7月4日～7月17日 県立修猷館高（福岡）
- 8月28日～9月9日 大町市立第一中（長野），北海道教育大附属札幌中（北海道）
- 9月1日～9月14日 岡山大教育学部附属中，笠岡西中（岡山），町立海田中（広島）
- 9月4日～9月16日 県立川口高，福島大教育学部附属中（福島），県立掛川西高（静岡），町立高崎中（宮崎）
- 9月5日～9月18日 大阪女子学院中（大阪）
- 9月7日～9月20日 筑波大附属中（東京）
- 9月8日～9月22日 法政大学第二高（神奈川）
- 9月11日～9月25日 都立国立高（東京）
- 9月18日～9月30日 小金井市立第二中，小金井市立東中（東京），印南中（和歌山），国際基督教大学高（東京），県立沼田女子高（群馬）
- 9月25日～10月7日 八王子市立第三中，国際基督教大学高（東京）
- 10月2日～10月14日 三鷹市立第二中，杉並区立宮前中，都立国立高（東京）  
清真学園（茨城），西脇市立西脇中（兵庫），広島大学教育学部附属福山高（広島），下関市立日新中（山口）
- 10月12日～10月25日 聖園女学院中（神奈川）
- 10月16日～10月28日 町立鳴瀬第二中（宮城），フェリス女学院（神奈川）
- 11月6日～11月18日 堀越学園（東京），明倫高（神奈川）
- 1979年1月22日～2月3日 稚内高（北海道）



岡山大学 部附属中 教育学	市立石井中	雙葉中	中町立 鳴瀬第二	笠岡西中	市立日新中	桐蔭学園高	子高 宮城第一女	県立小千谷高	県立首里高	九州学院高	鼎が浦高	県立青森高	桜美林高	北陸学院高	暁星高	藤女子高
				1		1				1	1			1		
1	1	1	1		1		1	1	1			1	1		1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

長野西高	院フェリス女学	県立熊本高	成城学園高	高県立沼田女子	聖学院高	南山中・高	共愛学園	福山誠之館高	聖心女子学院	県立富岡西高	県立川崎北高	県立修猷館高	県立秋田高	県立山形北高	高県立前橋女子	高県立川越女子
			1													
1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

高共立女子第二	順心女子学園	学園小林聖心女子	貞静学園	府立寝屋川高	法大第二高	県立川口高	部附属福山高 広島大教育学	清真学園	明倫高	堀越学園	県立掛川西高	芝学園	尚綱女学院高	部青山学院高等	高明大附属中野	麻布学園
	1			1					1			1		1		
1		1	1		1	1	1	2 1		1	1		1		1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1

県立川崎高	国際基督教大	稚内高	合計
			18
			10
			8
1	2	1	85
			1
1	2	1	122

(ただし、1名辞退)

#### 4. 学科別および男女別

学 科	性 別		合 計
	男	女	
人文学科	7	11	18
社会科学科	8	5	13
理 学 科	6	6	12
語 学 科	0	36	36
教育学科	4	15	19
教育学研究科	1	3	4
行政学研究科	3	0	3
比較文化研究科	1	1	2
聴 講 生	9	5	14
計	39	82	121

#### 5. 教員免許状取得状況

1979年3月卒業生405名中、教員免許状を取得した学生の詳細は次のとおりである。(聴講生を除く)

教養学部

	免許状取得者実数	中学校教諭一級免許状	高等学校教諭二級免許状
人文科学科	12	12	12
社会科学科	12	12	14
理学科	7	7	7
語学科	28	27	28
教育学科	13	13	13
計	77	71	74

学 科	社 会 科		理 科		数 学		英 語	
	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級	中学一級	高校二級
人文科学科	1	1					11	11
社会科学科	8	10					4	4
理学科			3	3	4	4		
語学科							27	28
教育学科							13	13
計	9	11	3	3	4	4	55	56

## 大学院

研 究 科	専 攻	高等学校教諭一級免許状
教育学研究科	理科教育法	0
	英語教育法	2
行政学研究科	行政学専攻	3
合 計		5

## 6. 教員就職状況

公立中学校 男1名(英1), 女5名(数1, 英4)

公立高等学校 男2名(英2), 女6名(英6)

私立高等学校 男3名(英3), 女4名(数1, 英3)



## 4. ひとのうごき

### ■新任・就任・辞任

林 昭道講師（教育学）：78年4月より着任。

栗山容子講師（心理学）：78年9月より着任。

立川 明講師（教育学）：78年9月より着任。

Joseph A. Precker 招聘教授（香港大学教授）（心理学）：78年4月着任。6月30日迄。

長谷川浩一講師（非常勤）（心理学）：79年4月より着任。

土谷良巳助手（非常勤）（心理学）：78年4月より着任。

浦田俊之助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：78年4月より着任。

山岸恒男助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：78年4月より着任。

西沢雪乃助手（非常勤）（心理学）：78年9月より着任。

Ben C. Duke 教授（比較教育学）：79年4月。大学院教育研究科長に就任。

星野 命教授（心理学）：79年4月。学生部長に就任。

Richard Linde 教授（英語学）：78年4月。フレッシュマン英語教育主任に就任。

三宅 彰教授（物理学）（教育研究所長）：79年4月。図書館長に就任。

中野昭照海教授（教育工学）：79年4月。大学院部長に就任。

讃岐和家教授（教育哲学）：79年4月。教育学科長に再任。

Donald C. Worth 教授（物理学）：教養学部長再任。

北条礼子助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：79年6月退任。

中西雅之助手（非常勤）（視聴覚教育研究室・視聴覚センター）：79年6月退任。

### ■海外出張・休職・帰任

Donald C. Worth 教授，都留春夫教授，米国の大学訪問のため出張。79年5月2日より5月21日迄。

阿久津喜弘教授（教育コミュニケーション学）：79年4月より80年3月迄休職。

原 一雄教授（心理学）：78年9月より79年8月迄休暇。

小林栄智教授（英語学）：78年9月より79年3月迄休暇。

石川光男教授（物理学）：78年5月，6ヶ月の休暇より帰任。

川瀬謙一郎教授（教育哲学）：78年2月，6ヶ月の休暇より帰任。